

今ここにある“多様性”との対話
～「みんな違って、みんないい」ってなんだろう～



夏季セミナー

府立人研だより

7月26日(水)・27日(木)

大阪府立学校人権教育研究会事務局
2023年6月27日 第6号発行

◆会場のご案内◆

◆大阪市立住まい情報センター 3階ホール

- ・大阪メトロ谷町線・堺筋線・阪急千里線
「天神橋筋六丁目」駅 3号出口直結
- ・JR環状線「天満」駅より北へ約600m



◆府立柴島高等学校

- ・阪急京都線「崇禅寺」駅 南西300m
- 阪急千里線「柴島」駅 西300m



※上履きをお持ちください。



※ 両会場とも駐車場がありませんので、自動車でのご来場は固くお断りします。
また、会場への直接のお問い合わせはご遠慮ください。

◆参加お申し込みについて◆

- 1 資料代として当日2,000円が必要です。
- 2 申し込み方法
【別紙】参加申込用紙を、FAX(06-6324-3822)またはメール(furitsujinken@nifty.com)で7月18日(火)までにお送りください(詳細は開催要項をご覧ください)。
※各分科会会場には定員があります。参加状況により、希望の分科会にご参加いただけない場合があります。その際には、事務局から連絡をさせていただきます。

◆お願い◆

当日は名札をお持ちください。



7月26日(水) 第1日

	9:30	10:00	12:30	13:30	14:00	17:00
内容	受付	全体会	休憩 移動	受付	分科会	

会場

大阪市立住まい情報センター

各セミナー：府立柴島高等学校

校長部会：大阪市立住まい情報センター

第1日 午前 全体会

全体会

大阪市立住まい情報センター

7/26
(水)

このまちが好きだから ～被差別の歴史をもつ地域に生まれて～

講師：藤尾 まさよ さん(崇仁発信実行委員会代表)

全体会

10:00

12:30

「私にとって人権学習とは幸せの学習である」これは今回ご講演いただく藤尾まさよさんの言葉です。人権学習を通して、自分や周りの幸せにつながるような考え方ができるようになったという藤尾さんは、人権学習は特別な取り組みではなく、普段の日常生活に息づく学習であってほしいとの思いで、さまざまな角度から人権やまちづくりに関する取り組みを進めておられます。

また、「何歳からでも人は変わることができる」とも実感をもって話されます。学校現場では、これまで人権教育を担ってきた世代から若い世代への経験継承が喫緊の課題となっている中、藤尾さんは大学生をはじめとする若い世代とつながり、エネルギーに地元の魅力を発信されています。

このような思いに至るまでのご経験や、人と人との心地よいつながりを紡ぐ現在の取り組みについて聴かせていただき、これからの人権教育のあり方について、参加者のみなさんとともに考えたいと思います。

7/26 (水) 分科会 14:00 17:00 	第1セミナー（進路保障部会） すべての生徒の進路を保障するために ～基礎から学ぶ在留資格～ 講師：若村 信一郎 さん（大阪出入国在留管理局 在留支援部門 統括審査官） 報告：府立布施北高等学校 府立学校では近年、「日本語指導が必要な帰国生徒・外国人生徒入学者選抜」を実施している学校に限らず、さまざまな学校で外国籍や外国にルーツのある生徒が増えています。外国にルーツのある生徒が次の進路先として就職や進学を決めたとき、私たち教職員は何をすべきなのでしょうか。本セミナーでは、在留資格の観点から生徒の進路保障を考えていきたいと思ひます。前半は大阪出入国在留管理局の方から、在留資格制度に関して基本的な部分からお話していただきます。後半は、外国にルーツのある生徒の進路保障のポイントについて、事例を交えながら考えていきたいと思ひます。	府立柴島高等学校
	第2セミナー（教材部会） 外国にルーツのある生徒たちの学力保障と進路支援 ～学習言語力を高める授業づくりを通して～ 講師：白井 智美 さん（大阪教育大学 教授） 日本成育の外国にルーツのある生徒に加えて、日本での生活経験の短い生徒が府立学校に入学するケースが増えてきました。生徒や保護者の願ひを知ったり希望の進路を実現したりするためには、当事者生徒の出身国の教育制度や学校文化の理解をはじめとした、実態把握の積み重ねが必要になります。また、学校生活を送るうえで、日常生活の場面で必要になる「生活言語力」だけでなく、教科学習の場面で必要になる「学習言語力」を身につけていくことも求められます。講師の大阪教育大学の白井さんは、教科指導を通して「学習言語力」の育成をめざす「教科指導型日本語指導」を研究されています。本セミナーでは、生徒たちの進路指導や母語・母文化支援をどのように進めていくのかということもふまえながら、学習言語力を高める授業づくりに必要な留意点を考えていきたいと思ひます。	府立柴島高等学校
	第3セミナー（性差別撤廃教育） LGBTQの児童生徒の存在を認識した学校での取り組み 講師：日高 庸晴 さん（宝塚大学 教授） 文部科学省が2022年12月に12年ぶりに改訂した「生徒指導提要」に「性的マイノリティに関する課題と対応」という文言が初めて記載され、生徒指導の範疇に「性的マイノリティ」が明確に位置づけられるようになりました。みなさまの所属校では性的指向・性自認の多様性に関する取り組みをすでに実施していますでしょうか？ 学校現場においては、男女のいずれかに児童生徒を二分してしまうことや、異性愛を前提とすることが多く、当事者生徒にとっては心理的葛藤やストレス、それに関連した交友関係における不具合やいじめ被害、不登校などの困難を経験する場となることがよくあります。当事者生徒が安全で安心な学校生活を送るにはどのような取り組みが必要なのでしょうか。今回のセミナーでは宝塚大学の日高さんより、研究調査から得られた各種データに基づいて我々教職員がどのような取り組みをすれば当事者生徒の困難を軽減できるか考える機会としたいと思ひます。	府立柴島高等学校

7/26 (水)	校長部会 人権学習をどう進めるか ～部落問題の理解を通して～ 講師：平野 智之 さん（追手門学院大学 教授） 生徒たちが、人権課題を自分事として捉えるにはどのようなアプローチが大切でしょうか。部落問題の歴史や現状の理解を通して、人権課題を自分事として捉えるアプローチの方法を学びたいと考えています。あわせて、各校の人権学習の組織的な取り組みの様子や課題を共有し、人権課題を自分事として捉える人権学習の進め方、校長・准校長としてどのように人権学習を進める学校経営ができるかについて学びたいと考えています。	大阪市立住まい情報センター
-------------	--	---------------

府立人研 大阪府立学校人権教育研究会 〒533-0024 大阪市東淀川区柴島1-7-106 府立柴島高等学校内 （通郵便は「府立人研」とお書きください。） TEL・FAX 06-6324-3822（直通）（お電話の場合は、火曜日をお願いします。） Mail furitsujinken@nifty.com（お問い合せは、なるべくメールをご利用ください。） URL http://furitsujinken.in.coocan.jp/	 ↑府立人研HPも チェックしてくださいね
--	--

7月27日(木) 第2日

9:30 10:00 12:00 13:00 13:30 15:00 15:20 16:50 17:00

内容	受付	全体会	休憩 移動	受付	分科会 I部	休憩 移動	分科会 II部	事務 連絡等
----	----	-----	----------	----	-----------	----------	------------	-----------

会場 大阪市立住まい情報センター 各工房及び教頭部会：府立柴島高等学校

第2日 午前 全体会

7/27 (木) 全体会 10:00 12:00	全体会	大阪市立住まい情報センター
	次世代の多様性について一緒に考えてみませんか？	
	講師：小川 修史 さん（兵庫教育大学 准教授）	

「障がいの有無や性別に関わらず誰もがオシャレになれるファッション」を世界中に流行させるべく、仲間とともにパリコレでショーを開催した講師の小川修史さん。このプロジェクトのきっかけは、障がいや病気のため、本当に着たいと思えるものを着ることができない（諦めざるをえない）という声でした。障がいのある人のためのデザインではなく、「誰もが楽しさや喜びを感じられるかどうか（enjoyability）」を加えていくことで、世の中のアップグレードにつながるのではないかと小川さんは語ります。

インクルーシブ教育や授業でのユニバーサルデザイン等にも触れながら、「多様な人の魅力を生かす」研究・実践についてお話していただきます。多様性を楽しみ、真（新）の共生社会をつくっていくために、日頃の教育活動からできることを一緒に考えてみませんか？

第2日 午後 分科会 人権教育実践・入門セミナー及び教頭部会

7/27 (木) 分科会 13:30 17:00	第1工房（ケーススタディ部会）	府立柴島高等学校
	“ちがい”を知ろう 感じて、知る LGBTQIA+と差別	
	講師：前田 弦之介 さん（ふむふむ）	

2020年のセクシュアルマイノリティに関するインターネット調査によると、当事者の割合が人口の約10パーセントに達するという結果が発表されています。生徒や同僚の中に同じぐらいの割合で、当事者はいるかもしれません。今回のケーススタディ部会では、学校現場にいるかもしれない当事者への対応を、いくつかの事例などを通して参加者のみなさんと一緒に考えていきたいと企画しています。学校現場で生起する課題を解決していかなければいけないことを頭ではわかっている、具体的に何をどうすればいいのかわかりにくいです。一人で考えられることには限界があるし、とても解決できない、と思ってしまういませんか？ 今回の部会で、“ちがい”がなぜ生まれたのかを知り、それら“ちがい”を認め、生徒一人ひとりが安心して、心地よく過ごせる、そんな学校について、一緒に考えていきませんか？

7/27 (木) 分科会 I部 13:30 15:00	第2工房（若手工房・ファシリテーション工房）	府立柴島高等学校
	心をつなぐコミュニケーションワーク	
	報告：池田 径 さん（大阪府教育センター附属高等学校） 先着40名	

年度初めの緊張もなくなり、少し気だるさが漂う夏休み明け。実は、生徒がお互いを理解し、協働するクラスづくりには大切な時期です。この時期にどんな取り組みが必要なのでしょうか。今回、若手工房では、その問いに答えるようなワークを体験していただき、夏休み明けのクラス活動に生かせる企画を考えました。今回お迎えするのは、大阪府教育センター附属高等学校の池田径さん。今では、人間関係づくりのワークではこの人ありと言われる方ですが、実はご自身の教育活動に悩んだ時期もありました。池田さんの体験談をお聞きし、ポジティブに自分も他者も理解するワークを体験してみませんか。参加人数は40名を上限として実施いたしますので、必ず事前に申し込みをしてください。

13:30 15:00	第3工房（情報と人権）	府立柴島高等学校
	ネット社会における部落問題について ～私たちが知っておくこと・できること～	
	講師：三澤 雅俊 さん（尼崎人権啓発協会）、報告：府立人研「情報と人権」チーム	

ネットが普及した社会においては、差別事象は従来とはまた違った形でおこっています。前半では、ネット上での人権侵害・部落差別の現実について尼崎人権啓発協会でもモニタリングに取り組んでいる三澤雅俊さんからの報告を聞き、差別的な書き込みが後を絶たない現実やその対応の難しさについて学びます。後半では、体験型のワークを通して、日々新しくなる現代のネット社会に対応するために、教職員だからできることを交流を通して考えます。



7/27 (木)	第4工房（多文化教育）	府立柴島高等学校
	子どもたちに寄り添いながら心の成長を育む支援を 講師：原 めぐみ さん（Minami こども教室）	
分科会 I部	Minami こども教室は外国にルーツのある子どもたちの健やかな育ちのための場です。子どもたちが安心できる関係性を築き、共に育っていきなから将来の展望を描けるように「一人じゃない」と伝え、安心できる場を提供しています。また日本語を母語としない子どもたちが「学ぶ力」を確かなものとするために、ボランティアスタッフの協力のもとで日本語指導と学校の学習のサポートをしています。小学生から高校生まで幅広い年齢層の子どもたちがここに通い、さまざまな支援を受けています。今回はMinami こども教室に通っていた生徒たちがどのように成長をしてきたのかを、サポートをしていた方の想いや経験を交えてお話していただきます。そこから今後も増えていく外国にルーツがある生徒や保護者に対して、学校でできる支援をみなさんと一緒に考えていきたいと思ひます。	
13:30 15:00		

15:00 - 15:20 休憩・移動

7/27 (木)	第5工房（障がい者教育）	府立柴島高等学校
	地域との連携、福祉とつながる第一歩 講師：萩原 敦子 さん（NPO 法人 堺市相談支援ネット 総合情報センター 所長） 報告：府立堺支援学校	
分科会 II部	福祉機関に相談したいと思ったとき、どこどうつながればよいのか悩んだ経験はありませんか。今回は、地域とつながって子どもたちの支援を行った実践、支援学校のリーディングスタッフとして府立高校と連携した実践の報告をしていただきます。また、実際に福祉機関の方にお越しいただいて、そのつながり方や連携について具体的にお話いただきます。その後、各校で抱えている悩みやうまくいった事例を共有できる交流会を企画しています。福祉とつながる第一歩、基本の基から一緒に学び、福祉をもっと身近に感じてほしいです。子どもたちの支援の幅を広げていきましょう。	
15:20 17:00		
7/27 (木)	第6工房（部落問題学習）	府立柴島高等学校
	若い世代と考えよう、これからの部落問題学習 講師：府立学校卒業生	
分科会 II部	若い世代の講師を迎え、学生時代に経験した部落問題学習が今の自分にどうつながっているのか、今の学校現場への思いを含めて語っていただきます。効果的な部落問題学習を構想する上で、私たち教職員ができることをともに考えましょう。どのように部落問題学習を進めていこうか悩んでいる方にとって、きっとヒントが得られるはずでず。教職経験の少ない方をはじめ、多数のご参加をお待ちしています。	
15:20 17:00		
7/27 (木)	第7工房（ハンセン病問題）	府立柴島高等学校
	国の誤った絶対隔離政策で人生被害 ～私の体験から～ 講師：宮良 正吉 さん（ハンセン病関西退所者原告団いちょうの会） ハンセン病問題を考えるネットワーク泉北	
分科会 II部	「らい予防法」によって、患者を社会から徹底的に排除しようとした強制隔離や優性思想にもとづく人権侵害がおこなわれていました。家族から患者を引き離し、今でも家族や親戚、友人に会えない、故郷に帰れない、帰ることを拒む元患者の方もいます。また、今でもハンセン病歴者であることを配偶者や子どもに明かせない実態もあります。「ハンセン病問題解決の促進に関する法律」ではハンセン病回復者と家族が被った“人生被害”を可能な限り回復することが明記されています。そして、今年3月に取りまとめられた「ハンセン病に関わる偏見差別の解消のための施策検討会 報告書」ではハンセン病問題に関する教育の更なる推進が明記されています。今も残るハンセン病問題。真の解決に向け、学校現場もふくめ一人ひとりに何ができるのかを考えていきたいと思ひます。	
15:20 17:00		



7/27 (木)	教頭部会	府立柴島高等学校
	生徒を取り残さないための外部連携とサポート 講師：三木 泉 さん（大阪府教育庁 SSWSV）	
分科会 II部	教頭部会の今年度はテーマとして「生徒を取り残さないための外部連携とサポート」と題し、昨年度全校配置されることになったSSW（スクールソーシャルワーカー）について、スーパーバイザーである三木泉さんからご講演をいただきます。後半は事例検討等を通じて、SSWを通じて外部機関と協働していくうえでの要石ともなる教頭役割、学校づくりのポイントについて学んでいきたいと思ひます。	
14:00 17:00		

* 「府立人研だより」の掲示・配布をお願いいたします。各校の人権教育の充実にお役立ていただけましたら幸いです。*